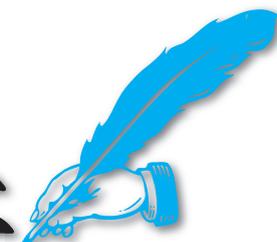


新入社員への手紙



新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

社会人としての新しい人生がスタートし、心配や不安もある反面、

希望と期待を胸に新たな一歩を踏み出された皆さんに、

さまざまな経験を積んで活躍されている先輩方から、

期待を込めたお言葉をいただきました。

きっと、“土木の魅力とやりがい”を感じ取ることができるはずです。

今回は、「1級土木施工管理技術検定学科試験 受験準備講習会」の講師の方々と

「事業運営委員会」の委員の方からのメッセージです。

- 誰でもみんな新入社員から 2
飛鳥建設(株) 安全環境部課長 星 雅道
- 「4つのかく」で「幸せ」になろう 4
大成建設(株) 東京支店土木部技術室次長 桑田 尚史
- 新入社員の皆さまへ 6
みらい建設工業(株) 東日本本店工事部長 守山 和朗

誰でもみんな新入社員から



飛鳥建設株式会社 安全環境部課長

星 雅道

就職氷河期を乗り越えてきた皆さん、入社おめでとうございます。さぞや夢と希望に胸膨らませていることと思います。学生時代は、頭の中の「思考、知識」が評価され、これからは「会社人」としての「行動」により、その成果を形にすることで評価されます。

30年以上前に私にもあった新入社員の頃、所長がおっしゃっていた言葉を思い出します。宅地造成の現場で測量を担当する私に、「人はミスをするもの。肝心なのは、そのミスをいかに早く発見し、素早く対応するか。丁張をかけてから、出来上がるまでのどの段階で気付くかが勝負。出来上がってからは、壊して作り直すのに3倍のコストがかかり、発注者や下請けさんからの信頼もなくす。失った時間は戻らないし、その損失は計り知れない。測量の時点で、良く周りの物との関係性をみて、チェックを欠かさないこと。変だと思ったら自分が納得するまで、時間をかけていいから。わからないことは何でも聞きなさい。それが君の役割だよ」と。

学生時代は、消しゴムか修正液で消して、計算書や図面を自分で直せば良いのですが、現場の構造物は、自分ひとりでは、消すことも、直すこともできません。何億ものお金が消えていくかもしれません。本当は、測量が面倒で嫌いでした。品質管理とか工程管理などをしたいと思っていました。下請けの職長に、「早く丁張をかけてくれ」と、追いかけ

られる夢をよく見たものです。この現場で、「自分が測量しなければ工事が始まらないんだ」「自分がやらなければ、誰がやるんだ」「何事も修業」と自分に言い聞かせたものでした。現場が無事竣工し、自分なりに役割を果たせたと思う達成感を味わうことができました。引き渡しの時は、現場に対し、もうかかわれないんだという寂しさも同時に感じたものです。嫌だと思っていた測量も、仕事を通じ作業手順や工程組立の勉強になっていたんだと後になって気が付きました。順調に終わった現場だけではありません。国道のバイパス工事で、長雨のため長期間土工事に取り掛かれず、工期が迫り、昼間は測量、作業員さんが帰ってから翌日の準備、設計変更の資料や竣工図書の作成と朝方4時頃まで残業する日々が何日も続いたことがありましたが、上司に恵まれ、身体的には辛かったけど、精神的には充実していたからこそ頑張ることができたと、その後の大きな自信になりました。

いままでは、先生を除き同じ年代の横の付き合い。気の合わない人とは、付き合いなくても良かったでしょうが、職場ではそうはいきません。上司や先輩が、わざと厳しくして皆さんを試しているのかもしれませんが、また、「わからない事は聞けと言われても、こんな事を聞いて大丈夫かな」と思っても仕事のミスを防ぐためであると割り切る事が大切です。聞かれた先輩は、得意気に教えてくれるでしょう。仕事の目的を理解する事も大切です。指示されたことだけをやるのではなく、その目的を理解しないと、やらされている感じがして嫌になります。目指すところがわかっているならば、先の行動を読み、工夫もできる。それが応用力に繋がっていくでしょう。

皆さんは今、スタートラインを踏み出したばかりです。辛いことに直面した時には、「上司も社長も、元は新入社員だった」「終わらない現場はない」という言葉を思い出してみてください。輝かしい足跡を残せる事を期待しています。

「4つのかく」で「幸せ」になろう



大成建設株式会社 東京支店土木部技術室次長

桑田 尚史

新入社員の皆さん、入社おめでとう御座います。

社会人として新しい人生がスタートし、期待と不安を胸に新たな一步を踏み出した皆さんを心から応援します。

私は社会人になって25年、現場での施工管理は3年程度、それ以外の22年間で土木構造物の設計に携わってきました。その経験を踏まえて、先輩技術者として、皆さんにささやかなメッセージをお贈りしたいと思います。

これから、様々な人と出会い、技術を習得し、経験を積み上げて技術者として成長していくために、皆さんには、是非、「4つのかく」を実践して欲しいと思います。

●1つ目は、「汗をかく」です。

やはり、私たちの仕事は体が資本です。「健全な肉体には健全な精神が宿る。」と言われるように、健やかな肉体・精神を保持するために「冷や汗」や「油汗」ではなく、気持ちの良い汗をたくさんかいて下さい。

●2つ目は、「物をかく」です。

仕事を通して得た知識や感銘を受けた先輩の言葉などを書き留めるようにして下さい。その書き留めた記録は、将来、皆さんの何物にも替え難い財産になるはずですよ。

● 3つ目は「恥をかく」です。

私たち日本人は「恥をかく」ことを極端に忌避する傾向がありますが、何か新しいことにチャレンジする時には恥はつき物です。どんどん新しいことに挑戦して、恥をかいて下さい。自分から積極的にチャレンジしてかいたたくさんの恥が、皆さんを優秀な技術者に育ててくれるはずです。

● 4つ目は「未来をえがく」です。

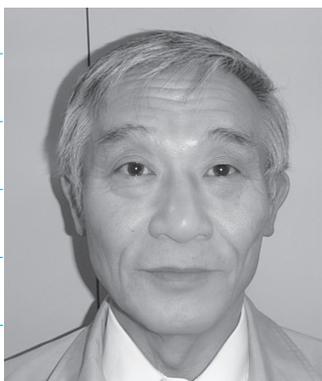
仕事を通して出会う様々な人の中に、皆さんが尊敬し、憧れを抱く先輩技術者に巡り合うときが必ず訪れると思います。そして「いつか自分もそうありたい」と自分の未来を強く思い描いて下さい。その「思い（未来をえがく）」は必ず皆さんを成長させてくれます。

私がこれまでの経験で必要と感じた「4つのかく」は、皆さんを必ず立派な技術者に導いてくれると思います。

最後に、「人はどんな時に幸せを感じるか？」との問いに対して、「人から愛されている時」「人から褒められている時」「人の役に立っている時」「人から必要とされている時」の4つの時があると言われています。立派な技術者として社会に貢献することで「愛される」以外の「3つの幸せ」を掴むことができます。いや、時と場合によっては「愛される」ことだって得られるかもしれません。

私は、皆さんが、「4つのかく」で立派な技術者に成長するとともに、是非「4つの幸せ」を掴んで欲しいと心から願っています。

新入社員の皆さまへ



みらい建設工業株式会社 東日本本店工事部長

守山 和朗

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。これから新しい社会へ第一歩を踏み出すこととなります。冒頭にこんな話をするのは心苦しいですが、すでに皆さんも聞き及んでおり、建設業界はここ数年非常に厳しい状況に置かれています。

公共事業の縮減やコンクリートから人へなど、赤字財政の元凶のような言われ方をしています。この現状に立ち向かうべく、各社必死の努力を続けています。皆さんの入社された会社の風向きも厳しいと感じる方がいらっしゃるかと思いますが、一丸となって現状の打破・新規業務の開拓・技術の開発などで新たな方向を模索していると思います。

現在、確かに建設業界に対する一般の受け止め方はいわゆる3K（きつい・汚い・危険）の職業であり、談合のうわさや政治家との癒着など悪いイメージが定着しているようです。しかし、道路や港湾などから何気なく使用している水道・下水・電気などのインフラ整備にいたるまで、土木という職種が無ければ存在しないものばかりです。身近すぎて、ありがたさを感じないかも知れませんが、逆に不都合があると当然のように苦情を申し立てるという、極端に言えば水や空気みたいなものです。

私の経験からお話しますと、入社以来、主として高速道路の現場を歩んできました。関越自動車道・東関東自動車道・常磐自動車道・近畿自動車道（舞鶴道）・山陽自動車道・

東京外環自動車道・京葉道路(改築)・東海北陸自動車道と8路線にも及び、内容も橋梁(上下部工)からトンネルまで多岐に渡りました。工事規模に関係なく、その仕事に対する自分の打込み具合や苦勞の軽重により感じ方が違いますし、社会の役に立つ仕事を行ったことが何よりも自分の存在感の証として残ると思います。

さて、自分の仕事に対する思いは一人ひとり違うのは当然ですが、私がこの分野に長くいて思っていることを3点ほど述べたいと思います。

第一に知識一辺倒になってはいけないということです。最近の技術者は、現場を見たり、学んだりしていないように感じます。現在のような情報化社会では、座っていても知識を得られますが、現場を知らないと単なる知識で終わってしまいます。現場を知ることで生きた知識となり、考え方に応用力がつきます。そうすると、知らない内容の業務でも想像でき、対応できるようになります。「実際に即した想像力」は、土木のみならず、どの職業についても最も必要なものであると思います。

第二に視野を広くする気持ちを持つということです。長く現場に従事していると、若い頃に学んでうまくいったことが全てであると思込み、何でも同じ方法でやれば間違いないと思込みがちです。このことが上司や若い方から「頑固だ」、「融通が利かない」などという目で見られる原因となるうえ、視野が狭くなり、自分の発展を妨げることとなりますので心がけてもらいたいと思います。

第三に人間は社会的動物であるという認識です。人と人とのつながりが基本となるということを忘れないでもらいたいと思います。そのためには、人の話をよく聞き、自分の意見を積極的に話してください。人と人とのつながりを綿密にするということは、それだけ自分が認められるということであり、ひいては自分のやりたいことができる範囲を広げられるということです。このことが自分の能力を十分発揮することにつながると思います。

入社してからの道は決して平坦ではないと思いますが、肩の力を抜いて希望を持って立ち向かってください。